発表原稿執筆要領の説明（ここに題目を記述）

株式会社全国地質　　〇花崗　計測，村上　鮭児

1.　はじめに

題目は1行目の中央とし，所属と氏名は2行目の右側に寄せてください．サブタイトルを付ける場合は、簡潔を心掛けてください．執筆者が複数名の場合は，発表者名の前に「〇印」を付け，発表者名の後ろに共同執筆者の氏名を続けてください．共同執筆者の所属が異なるときは，所属ごとに改行して，所属と氏名を入れてください．コンソーシアム等で共著者の所属がそれぞれ異なったり，グループ研究で共同執筆者が多くなる場合の記述方法は，工夫してください．申込時からの協働執筆者の増減は認められます．

2.　文字様式および文章様式のルール

本文は，2段組としてある左段の1行目から記載してください．原稿のページ数は，図表・写真などを含めて2ページとします．2ページ以外の原稿は，受け付けません．

(1) 発表原稿の書き方

発表者専用のホームページのテンプレート (word)を使用して発表原稿を作成してください．その際，様式の変更は厳禁とします．また，発表原稿は和文とします．発表原稿のファイル容量は，10Mbyte以下とします．

(2) フォントおよび文字の大きさ

フォントや文字の大きさは，表-1のとおりとします．塗りつぶし効果のパターンや半透明などは，禁止します．

表-1フォント・サイズ一覧表

|  |  |
| --- | --- |
| 題　目 | MS明朝体 （15ポイント程度） |
| 所属・執筆者名 | 本文：MS明朝体 （9ポイント） |
| 図表・写真・式 | MSPゴシック体 （9ポイント）  ただし， 本文中はMS明朝体 |

(3) 書式

様式は，1ページ49行，2段組みとなっています．以下の，点に留意してください．

①句読点やカッコなどは， 全角とします．ただし，行末にはみ出す場合は改行せず，行末に記してください．

②カタカナは，全角を基本とします．

③外国語単語，数字，記号などは，すべて半角としてください．ただし，ギリシャ文字は全角可とします．

④単位記号はSI表記とし，すべて半角としてください．

(4) 文章

文章には，現代仮名遣いを用い，漢字は原則として常用漢字を使用してください，ただし，固有名詞や広く用いられる慣用の語は，この限りではありません．本文中の句読点は「， ．」または「、 。」の組み合わせとして，いずれかに統一してください．本文中の人名には，敬称を付けないでください．また，適当な訳語がない固有名詞などの場合を除き，本文中に外国語を挟むことは避けてください．

3.　図表および写真のルール

図表および写真には，すべて図-〇，表-〇，写真-〇のように，本文に一連の番号（1，2，3）を付けてから表題を入れてください．番号と表題は，図・写真は下に，表は上に入れてください．図表・写真の番号と表題には，MSPゴシック体を使用します (ハイフンと番号は半角)．ただし，本文中で参照を促すために図表・写真などの番号を表記するときは，MS明朝体とします．

図表・写真はなるべく本文の説明箇所と離れていない位置に挿入し，幅が本文の横幅よりも小さい場合は，図を右側に寄せて左側に本文を印字するなど，空白を残さないように工夫してください．発表の主旨に沿った，鮮明な図表・写真を用いてください．カラー・白黒は問いません．図には，標尺を入れてください (適切なときは縦横比)．縮尺 (1/＊＊＊) は使わないこと．地形図・地質図・平面図などには，方位を追加してください．図表・写真に挿入する文字や記号は，読みやすい大きさや色に調整してください（図-1）．

C:\Users\k\AppData\Local\Microsoft\Windows\INetCache\Content.Word\レイアウト 2.tiff

**対象地**

図-1 長野県岡谷市の評価箇所1)

Google Map，Google Earthは，権利帰属が明確に表示されている場合自由に使用することができますので，使用する際には画像の一部を切り取らずに，必ず表示全体を本文内に埋め込んでください．なお，国土地理院の地図や写真などは，図番号に引用を示す「1)」等の半角上付き数字（図-1；参照）を付けて，本文末尾の「引用・参考文献」に出典を記述します．そのほか，書籍・学術論文などからの図表類を引用する場合も同様に，「引用・参考文献」に出典を記述してください．業務報告書から図表類を引用する場合には，発表に関して「事前に発注者の了解を得る」ことが前提ですので，「引用・参考文献」に出典を記述する必要はありません．忘れがちなものとして，気象庁アメダス等のデータを用いる場合は，引用を示す「2)」（図-2；参照）によって，引用であることを示してください．

図面は，報告書や説明に使用したものを流用せず，できるだけ新たなものを本原稿用に作成し，分かり易く，鮮明で図面サイズの小さなものを使用するよう努めてください．凡例の大きさ，項目の過不足，文字の大きさや色などには，特にご注意ください．図表・凡例に用いる文字・数字は5ポイントを最小値として考えてください．原稿からそのままPDFを作成しますので，PDF上で拡大した時に読めることが条件です．断面図などを大きく表示したい場合には，本文の2段組みを一部だけ一段組にして大きな図を挿入することが可能です．



図-2　地下水位変動図2)

数式を記述する場合は，数式の後に，「式-〇」のように一連の番号（1，2，3）を付けてください．必ずしも，数式エディターを使用する必要はありません．

*k*0=*Qt*/*Kt*・・・式-1

ここで，*k*0：飽和透水係数（m/hr）

*Qt*：浸透試験での終期浸透量（m3/hr）

*Kt*：試験施設の比浸透量（m2）で施設の形状（直径*D*(m)と設計湛水深*H*(m)）で決まる定数．

４. 引用・参考文献の記述方法

引用した全ての文献・図(地形図や地質図を含む) ・表・式・写真・各種データ(気象データなどを含む) などは，文末の「《引用・参考文献》」に記述してください．その時に，本文中の関連する箇所に引用番号順に上付き数字で番号 1），2），･･･ を付け，文末の「《引用・参考文献》」に引用番号順にまとめて記載してください．ここで用いる「1)，2)」は，半角文字とします．テンプレートの例示の基づき，引用元がwebページのときは，そのURLと確認日を記入してください．なお，文献の発行年などの年号は，すべて西暦で記載してください． その他，引用する資料等の組織による「引用のポリシー」に準じて表示することを妨げません．

論文の引用の際は，「《引用・参考文献》」には著者全員をフルネームで，本文中には，筆頭執筆者の苗字の後に年次（例；一人の場合「平野,2021」,2人以上の場合「平野ほか,2021」）と記述してください．

５. まとめ

PR目的の発表は受け付けておりません．特定の商標名・商品名などは題目に含めず，本文中では１回のみ（例；コアーパックチューブ（ビニールスリーブ装着ダブルコアチューブ））記述し，本文中で２回目以降使用する際は，一般名称を使用してください．

提出された技術発表論文集の原稿について，全地連では，様式と合致していること，登録商標，著作権に関する確認および，日本語・変換ミス等のチェックを行います．原稿の技術的な内容に関する査読は行いませんので，発表原稿については所属先で必ず査読を受けてください．

６. 謝辞について

必要であれば，文末で，「《引用・参考文献》」の前に章立てして謝辞を付けることが可能です．発表者および共同発表者の所属機関に対する謝辞は不要です．公的資金を利用した場合などは，その正式名称（「本研究の一部は科学研究費補助金（21K01234，代表：地盤太郎）の助成を受けたものである」）等を記述してください．

《引用・参考文献》

1) 国土地理院地形図（に加筆），（最終閲覧日2023年5月14日）.

https://mapps.gsi.go.jp/maplibSearch.do#1.

2) 気象庁アメダス：観測地点「網走」(最終閲覧日2023.5.24)，

https://www.jma.go.jp/jma/index.html.

3) 山口博久，中野真治，塩崎宜史（2021）：三軸磁気探査装置による鋼管杭の先端深度と方向の特定について,全地連技術フォーラム2021論文集,論文No.41.

4) 地盤調査の方法と解説（2013）：公益社団法人地盤工学会,pp.132-157.

5) 古谷尊彦（1996）：ランドスライド 地すべり災害の諸相，p.213，古今書院.